

午前10時30分開会

○春山委員長 おはようございます。ただいまからデジタル・トランスフォーメーション特別委員会を開会いたします。

日程に先立ちまして、7月に福祉総務課長、福祉政策担当課長の人事異動がありました関係で、委員、理事者の皆様には本日時点の名簿をお配りしておりますので、ご確認ください。また、委員会開催に当たりまして、千代田区議会委員会条例第17条に基づき、委員長から議長に申し入れ、小林副区長にご出席いただきました。小林副区長におかれては、お忙しい中、委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

それでは、本日の日程をご確認ください。報告事項が2件です。この日程に沿って進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、日程1、報告事項に入ります。

最初に、（1）令和7年度区民参加型デジタルプロジェクトについて、理事者からの説明を求めます。

○齊藤デジタル政策課長 それでは、令和7年度区民参加型デジタルプロジェクトについてご説明をいたします。

政策経営部資料1のほうをご覧ください。こちらは2定でも報告をしておる案件でございます。今回は進捗の報告という形でございます。予定どおりに進んでおるところでございます。

改めまして、取組の概要でございますけれども、地域の課題を区民が主導でデジタル技術を活用し解決するということを目的としてございます。今年度は柔軟な発想を持ち、かつデジタル技術と親和性の高い中学生を対象とし、ワークショップ形式で提案を練り上げてまして区に提案いただくことを予定してございます。

参加者でございますが、15名を予定いたしておりましたところ8名の申込みがあったところでございます。

現在の進捗でございますが、全3回中2回を終えているところでございます。まず、8月に実施いたしました第1回のところでは、ワークショップに向けてデジタル活用のイメージを膨らませていただくために、調布市にございますNTT e-city Laboにて最新技術の見学体験会を実施いたしました。Laboでは、クロスリアリティやメタバース、AIカメラなど、様々なデジタル技術を直接体験していただきました。

また、先日の日曜日、第2回目を実施いたしまして、ワークショップ前半戦を実施いたしました。こちら、中学生の中で議論が盛り上がることを狙いまして、会の冒頭で九段中等教育学校の6年生に講演をしていただきました。この生徒さんですけれども、自身で防災教育のアプリなども開発しておりまして、開催されている大阪万博のほうでも講演をされた生徒さんでございます。年の近い先輩の活躍ぶりを見まして中学生たちの刺激になった様子でございました。

ワークショップは2グループで開催をいたしまして、日頃感じている区の課題をブレインストーミングで洗い出した後に、解決に向けて取り組む課題の絞り込みを行いました。その結果「区の発信力を強化」すること、そして情報の受け手となる区民の「ITリテラシーを向上」といったことがそれぞれ各グループのテーマとなりました。

第3回は19日に開催をいたします。この選定したテーマについてデジタル技術を使ってどのようなアプローチができるのか、中学生たちが話し合って結論を出し、最後にプレゼンテーション形式で区に提案をすることで全工程が終了となります。

終了して以降ですけれども、区において提案を受け止めた上で、どのような形で区政に反映ができるのかを検討してまいります。

説明は以上となります。

○春山委員長 説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○西岡委員 募集人数が思ったよりも少なかった、8人ということで、ある意味濃厚でよかったのかなと思う反面、以前お願いしておりました教育委員会との相談をしていただいた上で、どういうふうにこの世代の子たちにアプローチすればいいのかというところは、その後どういうふうになりましたか。

○齊藤デジタル政策課長 2定で報告のときにご指摘を受けまして、募集のところについて子ども部との連携を進めてまいりました。具体的には各校に赴いて校長と面談の上で各校でチラシの配布をお願いしたりですとか、あと、児童館のところ、チラシの配架をお願いしたりですとか、あと、子ども部からの案内、通知の中にこのデジタルプロジェクトについての案内を載せていただいたりということで、集客のところでは連携をしてやらせていただいたところでございます。

○西岡委員 周知活動はよく分かりました。丁寧にやっていただいたんだと思うんですけれども、その内容的なアプローチの方法って、もちろんDXのご専門なのでそちらに特化していただくのが大事なんですけど、この世代に対するアプローチがどういうものなのかという、その内容についての相談とか連携というのは特にできていなかったんですか。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、内容の部分につきましては、ある意味自由な発想を持った中学生ということを対象にしてございまして、施設の見学ですとか、ワークショップの中である程度の区からのガイドは持ちつつも、基本的には自由な意見を尊重してやっていくということで取組をしてございます。

○西岡委員 最後にします。九段中等の取組を前紹介させていただいて、アメリカのグーグル本社に、もうこの秋、この時期かな、ちょうど行っている、もう帰ってきた時期だと思うんですけれども、そういうところとしっかり協力とか連携させていただいて、先生のお話を伺うとか、どういうふうな取組がいいのかというところをアドバイスを頂くというか、九段中等教育学校、特にこういうDX、ICT教育はとても特化している学校なので、そこら辺の連携というのは今後いかがですか、今後この世代にアプローチするならば。

○齊藤デジタル政策課長 そういう意味では例の2定のご報告の後に、九段中等の先生とも会話をさせていただきまして、学校公開のほうに招待をしていただきました。生徒たちが授業でどのようにAI活動、AI技術に触れているかというのも私自身目の当たりにさせていただきまして、やはり今の中学生というのが非常にデジタル技術に慣れ親しんでいる。またこういう使い方をするんだということを学んできたところでございます。委員ご指摘のように、やはり中学生を対象とすることであれば、やはりそういった教育分野との連携も必要になってくると思います。引き続き学校などとも連携を図りながら進めてまいりたいと考えてございます。

○夏目デジタル担当部長 今、西岡委員のほうから、教育、子ども部との連携、あるいは

教育機関、学校との連携ということでお話を頂きました。やはり中等教育学校がまさにこの10月ですかね、海外派遣研修ということで、お子さんたちがかなり長い期間、しかもプログラムが非常に充実しているということで、いろんな苦勞をされながらもそういったことを実現したんだと思っています。我々のほう、今回中学生を対象にこういったプロジェクトをやっているわけですが、我々として連携の在り方として、やはり九段中等教育学校のそういったイベントというか、教育プログラムに学ぶところも多いと思っています。ですので、我々が行った結果も最終的には中等教育学校のほうにはフィードバックしたいと思いますし、今回、中等教育学校が初めて海外に行った取組に関しても、ぜひそのノウハウなんかを聞いて、今後、中学生を対象にやっていくかどうかというのはまだこれからの検討ですが、今後のプロジェクトのほうに生かしてまいりたいと考えております。

○西岡委員 よろしく願います。ありがとうございます。

○春山委員長 前回の委員会のときから、教育との連携のところは多くの議員の方々から意見が出ていたので、ぜひそこはしっかりと連携していただきたいと思います。

桜井委員。

○桜井委員 この区民参加型のデジタルプロジェクトということで、中学生を対象に呼びかけを行っていただいて事業を行っているということについては大変素晴らしいことだなと。これからもこれからこの世代をしょって立っていただく若い方たちに率先してこういう取組をしていただけるということについては大変素晴らしい事業だなというふうに私も思いました。

それで、DXのこのところにも書いてありますけども、こういういろいろな紹介を頂いてこういうことができるああいうことができる、こういうツールがあるということを知ることというのはとても大切なことだと思うんですね。思うんですけども、その前にやることがあって、それは何かというと、こんなことで困っている。こんなことができたらいいな。こういうことをみんなで考えてやってみようよというような、そういう課題を共有する、一つのグループの中で共有して、こんなことができたらいいな、そのためにはDXで何ができるんだろうねというところに結びついていくということがないと、あ、あれができるこれができるということを学んだだけでは実らないと思うんです。で、そこら辺の第1回目、第2回目の中で、そういったような子どもたちのディスカッションなんかの中で、そういう課題の共有化というものがどのようにできているのか、どのようなものがあるのか、どのように受け止めているのかというところは、区としてどのように把握していっているのか教えていただけますか。

○齊藤デジタル政策課長 まず、1回目で見学体験会を実施したというところにつきましては、まずはワークショップの前段として、そもそもデジタルで何ができるのかということ、中学生もまだ知見、幼い拙い部分がございますので、まずはそういったところのイメージを持っていただくというのが1回目の狙いでした。先日のワークショップの中では、まさに今委員にご指摘いただいたような、課題の発散と申しましょうか。それぞれの子どもたちが日頃どんなところに課題を感じているのかというのを、まずはブレーストーミングの形で出し合った上で解決する課題を選んでいったというのが手順となっております。その中で、例えば上がりました課題というところでは、例えば、そうですね、なかなか手続がオンラインでできないものがあるねですか、あとは自転車でちょ

っと道が狭いよねとか、あとは例えば学校でも生成AIとか扱ってほしいよねですとか、あとは、例えば子ども向けのイベントとか案内が広報とかには載っているんだけど、なかなか直接自分たちには届かないねですとか、そういった中学生らしい視点での課題というのがたくさん出てきたのかなと思ってございます。今回その中でも全てを扱うわけにはいきませんので、ある程度テーマを絞ってということにはなりますけれども、出てきました課題感については全庁的には共有をさせていただきまして、区としての受け止めをしていきたいと考えてございます。

○桜井委員 そうですね、そのとおりだと思います。今お話を聞かせていただいた課題についても、中学生らしいとおっしゃったけど、いやいや、もう大変な立派な、そういう課題ということをしちとつかんで、中学生なりにその課題の抽出をされているんだなということをお大変感心して今お伺いをしました。で、先ほども言いましたけども、そういったような課題をどういうふうに解決をしていくのかという手順、それをやはり今度は大人が導いていってあげられるとか、紹介をしてあげられるとか、そういう子どもたちのそういう課題というものを大切に、それを一緒になってその解決に向けた手順とか手続とか、そういったようなものをサポートしてあげるというところはとても必要にこれからの中ではなってくるんだと思うんです。ぜひそこら辺のところは大切に、各学校ごとをお願いすることになるんでしょうから、職場の皆様がきちっとそういった道筋を立てていただけるように、各校に案内をすとか、道筋をつくるということが今後の中では必要になってくるのかな。そうでないと子どもたちの純粋なこんなこと解決できたらいいよねという思いを、それを生かすことというのができなくなってしまうので、ぜひそこら辺は大切にさせていただきたいというふうに思いますけど、区のお考えをお聞かせいただけますか。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、子どもの視点で見た課題が、確かに子どもが実装して解決まで行くというのは困難だと思ってございます。少なくとも第3回目のワークショップのところでは、区としての議論をガイドしながら、どのような解決方法が適切なのかということで解決策、結論まで導いていこうと考えてございます。あと、その他、いわゆる学校のシーンですとか、そういった部分でということですけども、そちらにつきましては、区としてどのような指導とか支えというのが子どもに対してできるのかということは区として受け止めて今後も検討をしていきたいと考えてございます。

○桜井委員 ありがとうございます。ぜひそのようにお願いしたいと思います。

それと、4のところ、4のところでしたっけね、九段中等の6年生でしたっけ、が防災のアプリを開発をしてレクチャーをしていただいているというようなお話もお伺いしました。やはり子どもたちに対して大人が大人目線でいろんなことを教えるのではなくて、やはり自分たちと非常に近い存在である立場の人がこういったような自分の経験値に基づいてそういう説明をしていく。今後どうしていこうかといったようなことを一緒に投げかけることができるというのはとっても素晴らしいことだと思うんです。ぜひ先ほど最後のところでご紹介を頂いた、このお子さんは防災のアプリですけども、やはり遅々として進まない防災をどういうふうにして進めていけるのかというところから発想になってこういうアプリを立ち上げたというふうに聞いていますけども、ぜひこういうような場面を多くつくっていただいて、子どもたちに浸透できるようにつくっていただきたいと思います。

ど、最後にお考えをお聞かせください。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、いわゆるデジタル分野においてこういったプロジェクトですとか機会があった際には、またこういったプロジェクトの対象者の刺激ですとか、そういったことになり得る仕掛けを引き続き検討して実施していきたいと考えてございます。

○桜井委員 はい。ありがとうございます。

○春山委員長 米田委員。

○米田委員 今、桜井委員がおっしゃったとおりいい取組だったと思いました。今、課長からご説明があったとおり、2番のところでどういったのが出てきたかといったら、手続であったり自転車道が狭かったり生成AIを活用したり、これまさに適切な議論の方向だなと思います。桜井委員がおっしゃったとおり、テーマにはなっていないですけど区政の課題だと思うんで、しっかり受け止めてやっていただきたいなと思います。

その上で、1番なんですけど、調布市に行かれたと。これ、こういう体験してきたと。どのような感想があったかお聞かせいただけますか。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、行った施設でございますけれども、NTTの東日本が運営している施設でございますして、テーマとして地域課題に向けて様々なデジタル技術が体験できる施設ということをテーマにしている施設でございます。実際行ってみますと、例えば遠隔農業でございますとか、スマートストア、クロスリアリティなど、いわゆる地方という意味での地域も含めて、今課題となっていることをどういったデジタル的な視点で解決していくかという、本当に様々なソリューションが展示をされておりまして、今回、中学生ということで連れては行きましたけれども、視察としては、例えば大人、他の自治体、他の自治体の議員様、いろいろ大人が見ても学びが多く得られる施設だったと感じてございます。

○米田委員 中学生の感想なんか、これ体験してどうだったかというのは幾つかあったと思うんですけど、それも聞かせていただければ。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、アンケートから得られた声としては、やはりふだんテレビで見えるような、なかなか自分で体験できないデジタル技術に触れられたことがとても良かったですとか、あと、いろいろなことができそうでわくわくしたといった声も頂戴してございます。

○米田委員 戻るんですけど、これ、副区長、このワークショップとか見に行かれていますか。1回、2回。

○小林副区長 私は2回目のワークショップに全部出ました。e-c i t y L a b oには今回以外のときに見学に行っております。

○米田委員 見に行っていてありがとうございます。せっかくこの8名が代表していい意見を言っていてありがとうございます。今後の取組でどのように政策実現できるか、まだ決まってはいるんですけど、しっかり最高責任者として激励していただきたいと思いますが、いかがですか。

○小林副区長 感想にはなってしまいますけれども、先ほど桜井委員もおっしゃいましたが、ほとんど変わらないですね、視点が大人と。その課題に対して解決を探るときに、ホームページでデータを探すと、エビデンスベースかみたいと思ったぐらい、手法も非常

に中学校2年生だからみたいなことではないですね。九段中等の学生に関しては、どこでプログラミングを始めたんだというふうに聞いたら、高校1年生の普通の授業から勉強した。つまり得意に自分が勉強を始めたわけではなかったということなんかも知ることができました。ということも含めて、私自身が直接そういう場に行ってお話を伺うというのは大変刺激にもなったし、こういう形で委員の皆さんにお話もできるので、引き続き続けていきたいと思います。

以上です。

○春山委員長 富山委員。

○富山委員 今回、募集要項を見たら15名程度の募集だったんですけど8名になったということで、まず内訳、私立の子だったり公立の子が何名ずついらっしまったか教えてください。

○齊藤デジタル政策課長 内訳としては、区立中学校が5名、その他の国立、私立で3名というところでございます。

○富山委員 ありがとうございます。先ほどおっしゃっていた広報の仕方が偏っていなかったことが確認できてよかったです。けれども、少人数集中できてよかったなと思う反面、やっぱり15名の規模を予定していたところ少なくなってしまったということで、少なくなってしまった理由などについて検討はされましたでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、今回募集に当たりまして、私自身各校を回って校長ともお話をさせていただきました。その中であった声としては、やはり今の中学生というのが、例えば塾や部活など、この時期ですと文化祭ですとか定期テスト、かなりやっぱり忙しいというところがございます。その中で3日間が拘束される、予定を3日間立てなければいけない。そうじゃないとなかなか生徒側も参加を萎縮してしまうという部分もございまして、そういったところで少し参加のハードルが上がってしまったのではないかとこのように振り返りをさせていただきます。

○富山委員 ありがとうございます。そちらの面はこの委員会でも私のほうからも指摘させていただいた部分でしたので、今後続ける際は考えていただきたいんですけども、この少人数集中してこっちのほうがいいなと思ったのか、やっぱり15人程度のもう少し大きい規模のほうがいいなと思ったのか、どちらでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、結果的には少人数集中型でよかったと考えてございます。ワークショップは2グループに分けて実施をしたんですけども、少人数であるがゆえに非常に結束力というか、和気あいあいとした雰囲気の中で議論が活発に行われておりまして、ワークショップ、先日行った第2回のもう最後のシーンでは、グループの垣根を越えて、みんなでわいわいと話し合うようなシーンも見られてございます。アンケートの中でも、いろんな人の考え方が知れてよかった。他校の人との交流があってよかったというふうに好評の声も頂いておりますので、生徒さんの満足度から見ても、決して人数としては届かなかったものの、プロジェクトの意義は損なわれていないと考えてございます。

○富山委員 最後になります。中高生対象にやるなら適切な人数というものが分かってよかったと思います。

確認なんですけれども、昨年は投票という形で、区で精査して幾つかの意見を公表して、皆さんにこんな意見がありましたと見ていただく機会があったと思うんですが、今回、ワ

ークショップでも大人とほぼ変わらないような意見が出たということなんですが、それを区のほうで反映を検討していただくということなんですが、やっぱり外に公表して、次の参加の勧奨にもなるかもしれませんし、区政について中高生に考えていただく機会にもなるかと思うので、公表ということは考えていらっしゃるのでしょうか、教えてください。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、今回、次回のワークショップにて提案を取りまとめる段になります。一旦自由な発想の下で出た結論を受け止めて、具体的に区としてどういう形で政策に反映できるかというのを考えてまいります。なので、場合によっては、例えばその提案がそのまんま区として実施できるわけではない可能性ももちろんありまして、そうすると、実際出てきたもの、そして何ができるか、こちら辺を総合判断の上で公表するのであればするということになろうかと思います。なので、そういった公表の形を考える段で、今回頂戴した意見のようなものもこういった形で外に出せるのか、併せて検討したいと考えてございます。

○春山委員長 富山委員のおっしゃられたところ、成果物としての公表だけじゃなくて、多分プロセスも含めて公表していくことが、次の皆さんの関心も含めてよい効果になるんじゃないかということも含まれていたと思うんですけども、その辺お答えいただけますでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 今回、過程で出てきたこの課題、取り上げられなかったけれども出てきた課題、こちらの公表についても、成果物の公表と併せてやり方については検討したいと考えてございます。

○富山委員 お願いします。

○春山委員長 ほかにございますか。

○入山委員 簡単に。先ほどのお話の中で成果の発表というのは、こういった形で。何か場所を設けてやるような形でしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 第3回のワークショップの中で、最後のところで、いわゆるプレゼンテーションという時間を設けまして、そこで提案を受け付ける予定としてございます。

○入山委員 そうすると、何名か限られた人数で行われるという、ほかの傍聴というか、見に来られる方というのは限られちゃうということでしょうか。

○齊藤デジタル政策課長 そうですね、特にワークショップ自体は公開で行っているものではございませんので、参加者及び区の関係者に限られるというところでございます。

○入山委員 次の世代にもつなげていくために、例えば中学校ごとに、例えば成果の発表をしに行くとか、そういったことも考えられると思うんですが、そういうのは考えていらっしゃるかい。

○齊藤デジタル政策課長 現時点におきましては、そのようなところまでの検討は進んでございません。第3回の内容も踏まえてとはなりますけれども、何かそういった形で協力いただいた学校への何か返しといいますか、フィードバックができるのかというのについては検討してまいりたいと思います。

○入山委員 最後にします。せっかくデジタルということで、何かそういったデジタルで発信するようなこともできたらいいかなと思っていますので、ぜひそこら辺は考えていただけたらと思っています。

○夏目デジタル担当部長 今、富山委員、それから春山委員長、それから入山委員のほうから、公表とか、あるいはフィードバックとか、そういったお話を頂きました。今回プロセスも含めてとか、あるいは成果について、今のところ閉ざされたというか、少ない人数でのワークショップということで、まずはそこで一旦成果というか完結はさせたいと思いますが、先ほど冒頭西岡委員のご質問にもお答えしましたけども、例えば九段中等教育学校にフィードバックするというようなお話も申し上げたところですので、ちょっとそういった情報、今回の取組に関する結果とか公表とか、あるいはそのプロセスについてのご紹介とかについては、今後少し考えていきたいと思います。

○春山委員長 この事業に関して前回の委員会からいろんな意見が出ているんですが、この事業自体の狙いが区民参加型で政策提案をするというところから前事業から引き継がれたもので、今回初めて中学生向けというのをターゲットを絞ったところで、るる皆さん、委員の方から意見が出ているのが、やはり若い世代がこういった区政の課題を考え、デジタルを使って提案をするというところがとてもこれからの子どもたちを育てていくデジタル社会にとってとても大事だということからいろんな意見が出ているのかなと思います。この事業の狙いのところと、実際に今回の事業をしてのよかった事業じゃないかという皆さんの委員の方からの意見のところがよく受け止めていただく必要があるのかなというふうに感じていますが、いかがでしょうか。

○夏目デジタル担当部長 今、委員長のほうから頂きました。DX戦略のほうで、地域のスマート化については地域が主役となってデジタル技術を活用して課題を解決していくこと、それからデジタル技術の活用によって区民の生活の質をより向上させることというようなことを掲げております。今回、中学生を対象にということで、中学生ならではの感性で感じる地域課題のデジタルによる解決というようなことを目指してきたところです。ですので、こういった趣旨に沿って、途中、桜井委員からも、子どもたちのよさを最大限引き出せるような取組を我々も支援していかなくちゃいけないというふうに思いましたので、そういったご指摘も踏まえて、このDX戦略に掲げた課題を念頭に置きながら取組を進めていきたいと思います。

○春山委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、（１）令和7年度区民参加型デジタルプロジェクトについて質疑を終了いたします。

次に、（２）全庁LANシステムの管理運営について、理事者からの説明を求めます。

○吉田情報システム課長 それでは、私からは、全庁LANシステムの管理運営について、政策経営部資料2に基づきましてご報告させていただきます。

今回の説明の趣旨になりますけども、区の情報基盤である全庁LANシステムにつきましては、次期リブレースに向けて、今後、予算案の提案ですとか、設計・構築の段階に入るステージになってきましたので、現状と課題、それから次期リブレースに向けた方向性について、少しお時間を頂いてご説明させていただければと思います。よろしく願いいたします。

まず、資料の「全庁LANシステムとは」というところでございます。全庁LANシステムにつきましては、総合行政システムなどの内部事務システムを運用するための基盤ネ

ットワーク、職員の業務用端末、電話機、複合機、リモートワークの環境、セキュリティ対策や職員向けのヘルプデスク等を含む区の情報システム全般の総称でございます。

下に行っていただきまして、β'モデルとはというところでございます。区の全庁LANの現行環境につきましては、インターネット接続系に業務端末や主要業務システム、重要な情報資産を配置するβ'モデルを採用しております。右にβ'モデルのイメージ図をつけてございます。この図をご覧くださいまして、区では図の一番右側のインターネット接続系に業務端末を置いております。文書管理や財務会計などの業務システム、情報資産を配置し、メールやWEB閲覧、クラウドサービス利用など柔軟な働き方ができる環境となっております。

続いて、次に真ん中の、そうですね、次に真ん中のLGWAN接続系、ここにつきましては、インターネットとは遮断されたセキュアな環境で、自治体間や国との行政専用のネットワーク、LGWANによって情報のやり取りなどを行っている環境でございます。全庁LANの端末からはVDIという技術を使ってこの環境に接続し利用をしております。

次に、一番左側になります。マイナンバー利用事務系です。マイナンバーを含む住民情報、税、国保などの個人情報を取り扱う領域で、端末やネットワークは全庁LANシステムとは完全に分離している環境となっております。自治体はこの3層の分離された環境の中で業務を行っているというので少し複雑な環境となっております。

左のβ'モデルとはというところにお戻りいただきまして、このβ'モデルを使うことのメリットにつきましてご説明いたします。インターネットへの直接接続が可能となり、WEB会議やメール、チャットなどのコミュニケーション基盤、AIなどの最新かつ多様なクラウドサービスの活用が広がっております。また、業務端末の集約が一部進み、WEB会議専用端末の廃止や音声の文字起こしツールなどもこの全庁LANに取り込んで業務の生産性向上に資する環境も実装しているところでございます。さらに、インターネット接続系で外部とのファイル交換やメールの送受信を完結し、またそれを活用して業務システムとの連携などもできることから、業務の効率化が図られるというような環境が出来上がっているというところでございます。

ただ一方で、β'モデルでは従来の境界型防御にとどまらない追加のセキュリティ対策が不可欠であると考えてございます。具体的には、インターネット接続系にある業務端末などへのセキュリティ対策の強化、各業務システムのログの収集や監視の徹底など、運用面も含むセキュリティの多層化も実施しているところでございます。

裏面をご覧ください。裏面の左上になります。セキュリティの現状把握でございます。当区ではセキュリティ基準を用いて分析を実施して、「組織全体でリスクを管理し、リスク変化に対応する仕組みがある」との一定の評価を得ているところでございます。このセキュリティをさらに強化していくためには、委託先におけるID管理の一層の強化、インシデント発生時の迅速な対応、障害復旧手順のさらなる浸透・定着などに取り組むことで、さらにセキュリティを高めることができるとの結果も出ており、できることから順次取り組んでいるところでございます。

次に、右側、職員アンケート調査結果でございます。日頃から端末を利用している職員からアンケート調査を行いまして、560名の職員からの回答を頂いております。さらに各職場の実態把握のために個別のヒアリングも併せて実施しております。その結果、セキ

セキュリティ対策に伴う利用者の負担、例えばですけれども、Webサイトへのアクセスの制限ですとか、サイトからの資料をダウンロードする際の制限がきついですとか、データの取扱上の負担、例えば先ほど3層のお話をしましたけども、その3層間の業務間でのデータの授受のやりにくさですとか、業務端末の複雑化による負担ということで、全庁LANと個別システムをまた別の環境を用意して端末2台で業務を作業するような環境ができているということでの複雑化など、さらなる業務効率化に向けた改善点というところも見えてきたところでございます。

下に行きまして、やはり次期リブレースに向けた方向性ということで、次期リブレースでは、現行環境のよいところは引き続き継続しつつも、アンケート結果などを踏まえながら、ゼロトラストセキュリティの実現を軸に、「ひとり1台の端末で業務を完結できる環境」、「自治体独自の3層分離を意識せずに利用できる環境」、「情報資産を適切に保護しながら、どこでも働ける環境」の実現に向けた基盤の整備を情報システム課では進めていきたいと考えております。併せてBCPにも対応した環境の構築が必要なんだろうと考えているところでございます。

今後のスケジュールですけれども、現時点としては令和9年度中の稼働を目標に設計・構築を進めていきたいと考えているところでございます。

説明は以上でございます。

○春山委員長 説明が終わりました。委員からの質疑を受けます。

○西岡委員 ありがとうございます。いよいよここまで来たんだなというふうにずっと追って見ていましたので安心しています。β'モデルの接続というところで、今度このNISTのセキュリティフレームワークというセキュリティ分析を実施するわけですよね。そうすると従前からこのNISTの前のCSFを実施していたのであれば、その課題ですとか、その課題を全てカバーできるのがNISTというような理解でよろしいんですか。

○春山委員長 休憩します。

午前11時10分休憩

午前11時11分再開

○春山委員長 再開します。

情報システム課長。

○吉田情報システム課長 今回、β'モデルということで、情報資産なりをインターネット接続系に置くということは、やはりセキュリティをしっかり強化していかなければならないという環境になったなと思っております。そういった中では、米国のサイバーセキュリティフレームワーク、これを今回初めて使いまして、区を取り巻く状況をチェックいたしました。その結果としては、組織全体でリスクを管理し、リスク変化に対応する仕組みがあると一定の評価を受けているところでございますけれども、先ほどと説明が重複しますが、委託先におけるID管理の強化ですとかインシデント発生時の迅速な対応、障害復旧時の手順のさらなる浸透・定着というところをさらに進めればよりセキュリティを高められるという評価を頂いたというところで、この辺をできるところから今後取り組んでいきたいと考えているところでございます。

○春山委員長 もう一点、西岡委員からの質疑にあった、CSFで出た課題について、今回のリブレースでカバーできるということでしょうか。

○吉田情報システム課長 今回のこのサイバーセキュリティフレームワークで、3点ほど挙げさせていただいております。例えば、委託先におけるID管理の一層の管理というところですけども、こちらはもう既に全庁LANシステムの運用・保守の事業者ですとか、総合住民サービスシステムの運用・保守事業者には委託先監査に行っております。その中で、IDが適切に管理されているかというところをしっかりとチェックしているところがございます。今後も国のセキュリティポリシーが改定されて、委託先の情報セキュリティの基準を求めていくという流れの中で、様々な委託の中でどこまでできるかはありますが、こういったIDの管理というものはしっかりと求めていきたいというような体制を構築したいと考えております。

続いて、インシデント発生時の迅速な対応というところで、現在もこの全庁LAN環境についてはSOC、セキュリティオペレーションセンターによって24時間365日の体制でサイバー攻撃の検出や分析、暫定対応などを行っている環境はございます。加えて、区で情報セキュリティインシデントが発生した場合には、CSIRTというチームをつくって対応するような体制もできております。それに加えて、今回さらに強化すべきといったのは、サイバー攻撃の検出や分析にAIの分析ツール、人に頼らずAIの分析ツールを使い、人の判断のみに依存しないような環境をつくることでよりセキュリティを強化できるんじゃないかというような指摘を頂いております。

それから、障害復旧手順のさらなる浸透・定着というところでございますけども、現在、本庁舎とデータセンターのネットワークが切断された際、本庁舎内部のネットワークを使ってどこまで業務継続ができるかという訓練は毎年やっているところでございます。ただ、その訓練に参加している職員が情報システム課の職員のみとなっておりますので、情報システム課以外の職員も巻き込んだ形での立ち上げ訓練などに広げてこういうものを定着していくことがよいんじゃないかというような提案を受けているところでございます。

以上でございます。

○春山委員長 西岡委員。

○西岡委員 丁寧にやられているんだと思います。NISTは、大変もうどこでも割と使っているところなので、こちらを使うというところで安心はしていますが、やはりメインはガバメントクラウドへ移行していくというところで、そのセキュリティを本当にしっかりしていただきたいというふうに思っていますし、全庁的な職員の研修というところも丁寧にしっかり全員がそこは自分の意識を高めてやっていただきたいというふうに思っています。

NISTのいわゆるフレームワークのセキュリティ全体のコストって、どのくらいですか。

○吉田情報システム課長 この、ちょっとお待ちください。すみません。6年度に第三者視点での現状の環境のセキュリティ分析、課題の抽出、職員にとって効率的な業務環境ですとか、そういったヒアリングの実施などをまとめて業務委託のほうを行っております。その業務委託の契約額が3,278万円となっております。

○西岡委員 そのくらいするんだなとは思いますが。ランニングコストというか、今後どのくらい膨らんでいくとか、そういうのはめどはありますか。

○吉田情報システム課長 構築に向けて6年度はそういった現状分析と将来像みたいなも

のを職員のアンケートを取りながらつくってございます。で、今年度につきましては、それを具体化する技術選定ですとか、業者選定を行うまでの要求水準の作成なども行っておりまして、その契約が3,278万円、こちら3,278万円なんですけども、この2か年の契約の中で次期リブレースに向けてこういった体制でやっていくのがよいのか、環境がよいのか、セキュリティがよいのかというところをまとめ上げることになってございます。

○西岡委員 このセキュリティ、NISTへの、ましてやセキュリティの対策なのでコストがかかるのはどうしても仕方ないと思いますし、むしろそこはしっかりコストをむしろかけていただいて、区民の安全を情報セキュリティとしてしっかり守っていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。確認で。

○春山委員長 はい。

ほかにございますか。

○米田委員 西岡委員がほぼ聞いていただいたんで、9年度までの、西岡委員も今聞いていたんですけど、9年度移行に向けて設計とか構築とか、様々な研修とかも出てくると思います。全体感の金額は当然出ないと思うんですけど、大体これぐらいかかるんじゃないかというつかみの金額があればありがたいと思うんですけど、いかがですか。

○吉田情報システム課長 まだ積算中ですので、具体的な数字というのはなかなかお示しは難しいんですけども、現在のこの環境をつくった際の経費ですけども、令和3年度、4年度で行っております。その2か年で予算としては約16億7,000万。結果、決算としては13億3,000万程度になっております。約2割ぐらい落ちているんですけども、やはりこういうシステム面で、端末ですとか各種ライセンスというのは見積り時と実際の契約時の差が結構大きく出る傾向にあります。ですので、これほどの予算と決算の乖離が出ているのかなと思っております。次期基盤は基本的には現行のいいところは生かしつつと考えておりますので、3年度、4年度に予算をお願いしました16億7,000万を基本に、今、国内企業物価指数も2020年を100としたときに、2024年、25年では120から125という数字も出ておりますので、物価高騰分なども恐らくここに加味されてくるだろうと思います。そういった範囲内でご説明できる範囲で予算のほうを提案させていただければなと考えているところではございます。

○米田委員 調達にやはりそれぐらいかかると思います。物価高騰もあるんで、さらなる上昇も見込まれます。ただ、国の支援とか東京都とか様々なものもあります。また、今、課長がおっしゃっていただいたように、活用できるものはしっかり利活用してやっていて、少しでも一番いいのを使っていたきたいんですけど、抑えながら積算していただきたいと思いますけど、いかがですか。

○吉田情報システム課長 各自治体の業務環境に対する補助金というのはなかなか見つけにくいところはあるんですけども、できる限り財政負担を減らすような形で補助金なりの活用ができるかどうか、それはよく見ながら、財源というものを意識しながら検討は進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○米田委員 ぜひお願いしたいなと思います。セキュリティのところなんですけど、もうほとんどやっていただいたんですけど、今後インターネット接続になっていく。手間も省ける一方で対策も必要になってくる。IDとかアカウントとか特に必要になってくる。セ

セキュリティをよくやっていただいているんですけど、職員の手間が楽になる反面セキュリティ上増えることもあります。研修をやっていただいていますけど、その辺のところをよく説明していただいて、個人情報が増えることのないよう、事故がないようやっていただきたいと思いますが、いかがですか。

○吉田情報システム課長 情報セキュリティ、個人情報保護の研修につきましてはもう例年やっておりまして、職員1,000人以上が毎年受けていただけているというような環境がございます。これは引き続き継続しながら、そういったセキュリティ意識というものを持った中での業務遂行というものをさせていただきたいと思っております。また一方で、業務がセキュリティを強くするイコール業務がしにくい面もありますけども、そこをどこで線引きしていくかというのは非常に難しい面はあります。一つ一つ職員から上がってきた課題などがあれば、セキュリティ面との比較をしながら、よりよい業務のしやすい環境というものをしっかりつくっていくような体制で進めていきたいと思っております。

○春山委員長 ふかみ委員。

○ふかみ委員 日頃システムの安全・安心な運用に邁進していただいております、ありがとうございます。

質問なんですけれども、こちらのほうに最新かつ多様なクラウドサービスの活用ということで、先ほどお話にありましたように、ガバメントクラウドへの移行と聞いておりますけれども、基盤なんですけど、こちらは国内企業のものでしょうか、それとも海外企業のものでしょうか。

○吉田情報システム課長 今回移行するガバメントクラウドの基盤につきましては、AWSを利用する予定であります。で、それはもちろん、国のほうからガバメントクラウドとして認定するに当たっては、やはり国内法の適用ですとか、そういったセキュリティ面の強固なセキュリティ面を要求されたりですとか、そういった面でかなり要求はされている中での構築されたAWSの環境を使うということを想定しているところでございます。

○ふかみ委員 ありがとうございます。もしご存じでしたら、データセンターは国内にあるのでしょうか。

○吉田情報システム課長 AWSですね。

○ふかみ委員 はい。

○吉田情報システム課長 今回利用するAWSのデータセンターについては、国内にあるということで確認しております。

○ふかみ委員 ありがとうございます。バックアップなどを海外バックアップであるとか越境アクセスというのはあるのでしょうか。

○吉田情報システム課長 今回のガバメントクラウドにつきましては、日本国内でのメインとバックアップ、両方こちらであるということで確認しております。

○ふかみ委員 ありがとうございます。先ほどお話がありましたように、準拠法については日本国内だと理解いたしました。今質問させていただいたのは、きちっとしているんだろうなと思った上で聞かせていただいたんですけども、このぐらいの説明ですとやはり区民の皆様にもお伝えすることによって皆様の安心性って高まるんじゃないかなと思ってあえてご質問させていただきました。よろしくお願いいたします。

○春山委員長 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 ぜひ、職員の教育も含めて、研修も含めて、しっかりと進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、（２）全庁ＬＡＮシステムの管理運営について質疑を終了し、日程１、報告事項を終わります。

次に、日程２、その他に入ります。委員の方から何かございますか。

○米田委員 先ほどの１番の報告でございました中学生が東京・調布市ＮＴＴ ｅ－ｃｉｔｙ Ｌａｂｏに行かれたと。今日の報告も聞いて大変いいところだなと思いました。ぜひとも委員会で行ってみたいんですけど、委員長、副委員長で諮っていただければありがたいんですけど。（「賛成」と呼ぶ者あり）

○春山委員長 それでは、この件は改めて皆様含め調整させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、執行機関から何かございますか。（「特にございません」と呼ぶ者あり）最後に、日程３、閉会中の特定事件継続調査事項についてです。閉会中といえども委員会が開催できるように議長に申し入れしたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○春山委員長 それでは、本日はこの程度をもちまして閉会といたします。

午前１１時２６分閉会